

飛躍する台湾産業



オンラインショッピング(下)

オンラインショッピングの一つの形態として、今回はネットオークションを紹介する。ネットオークションは著しい成長を示しているが、これは短期間での成長を求める時代の潮流にあったサービスとも言える。オークションそのものは既にオンラインショッピングの主要なプレイヤーが出揃い、更に今まさに再編を迎えようとしている。

今回は台湾におけるネットオークションの現状を紹介するとともに、台湾の代表的なネット企業の一つであるPChomeを紹介する。

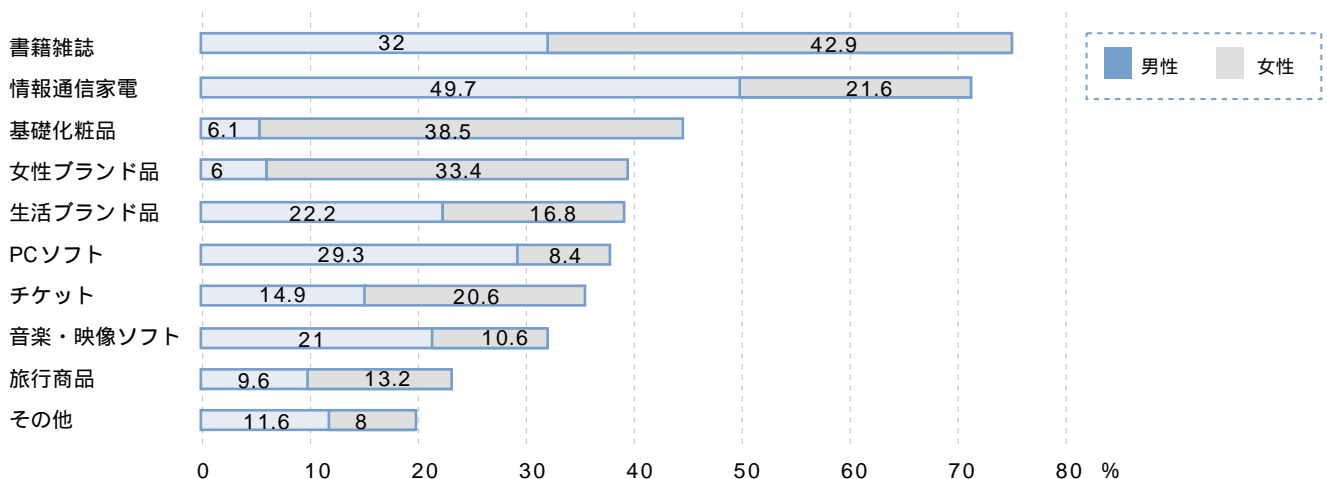
さて、今回はオンラインショッピングを概観したが、消費者向けのもう一つの重要なサービスでもあるオークションを見てみよう。

MICによれば2005年のネットオークションは317億8,800万元と見積もられており、2004年度比で65.3%の成長をしている。MICによるネットユーザーへのアンケートによると、ネットオークションはインターネット上の有償サービス中、利用者数の多いサービスとして、着メロサービスやオンラインゲームを抑えてトップに挙げられている。

ネットオークションで取引される商品としては、書籍が1位、次いで情報通信家電が2位、3位が基礎化粧品となっている。現在までの所、書籍では利用者の性別差異はそれほど大きくないが、情報通信家電は3/4を男性が占め、基礎化粧品では86%を女性が占めている点が特徴的である。

オークション市場でのプレイヤーは主に3社、eBay台湾、Yahoo!奇摩、PChome Online(以下PChomeと略)である。この市場に最も早く登場したのはeBay台湾で、2002年6月に開始。ユニークなTV広告で一世を風靡した。その後、2004年9月に立ち上げられたYahoo!奇摩のオークションサイトが、ポータルサイトとしての強みを活かしてトップとなり、現在では、オークションサイトはYahoo!奇摩の非広告収入の柱となっている。台湾の3大ポータルの一つであるPChomeは最後発で、2005年3月に初めてこの市場に参入している。PChomeのオークションサイトの特徴は、オークションの利用に際して、ユーザーに費用がかからない事である。後発として参入するためにとった措置と思われるが、基本的に広告収入やその他付加価値サービスで収益を稼ぐ

図1：オークションの利用対象商品





モデルを採っている。

さて、このオークション市場において2006年6月に大きな再編がおこった。それはオークション市場2位のeBay台湾と3位のPChomeが共同で新たなオークションサイトを立ち上げる事を発表し、それぞれのオークションサイトをそこに吸収、そしてサイト自体の運営はPChomeにゆだねられる。

オークションが急成長を遂げている大きな原因のひとつとしては、オークションが1980年代生まれの新卒者にとって大きな起業の手段となっている事もある。2005年3月に汎亜人力銀行(人材バンク)が行ったアンケート調査によると、卒業前の1980年代生まれの学生の創業手段として、第一がオークションで売り手として参加、続いて露店、会社を設立、屋台、フランチャイズに加盟などの方法が挙げられている。オークションを選んだ人の理由としては、「低コストで経営者になれる」、「簡単に早く成功できる」、「人に管理されたくない」などが挙げられている。台湾人が比較的独立志向が強いこと、また、近年の若い世代が短期間で成功を求める事を考えると、ネットオークションというシステムは正に時代の潮流なのかもしれない。

今回の「飛躍する台湾産業」では、オンラインショッピングに関連して、台湾の3大ポータルの一つであるPChome網路家庭を紹介する。同社は3大ポータル中唯一の純粋ローカルブランドであり、また、ネットポータルの運営会社としては唯一の株式上場企業でもある。

同社の前身である電腦家庭は国内最大のPC関連出版社で、当初PC関連の入門情報誌として大きく成長した。

その後、1998年7月兄弟会社である網路家庭が設立され、ネット事業に本格的に乗り出した。

2000年10月には現在の主力事業であるオンラインショッピングが始まる。

2004年7月にはVoIPであるSkypeの台湾代理として台湾において通信事業を開始、2005年3月にはオークションを開始するなど矢継ぎ早に新しい事業を展開している。更に2005年1月には台湾にて株式公開をしている。

PChomeで興味深いのはeBayとの提携関係である。2006年6月5日、eBay台湾とオークション事業での提携を発表したことは既に述べたが、eBayとの提携関係は単にオークションのみにとどまらない。米国のeBay本体がSkypeを買収しており、通信事業でもeBayとは深い関係にある。PChomeは世界でも最も成功しているSkypeのパートナーの一つとされている。現在、台湾でのSkype利用者数は300万人とも言われている。PChomeはポータルサイトを窓口として、台湾において積極的にSkypeの販売を行うのみならず、Skypeのハードも手がけ始めた。アメリカにある100%子会社IPEVOによりSkypeのUSB端末を生産し世界中に販売している。この端末はIPEVOブランド(台湾を除く)やPChomeブランド(台湾にて)更に、OEM供給も行っている。

なお、IPEVOのUSBフォンは、ドイツのハノーバーで毎年開かれる国際的な工業デザインコンテストのIFデザイン賞を受賞している。

このようなeBayとPChomeの関係の緊密化は、単なる通信事業、或いは台湾におけるネット事業の提携という事ではとどまらないとも見られる。中国大陸でAlibaba、Yahoo、Soft Bank連合に対抗したいeBayと、台湾から世界進出を果たしたいPChomeが結びついたという見方も可能である。今後、中華圏のネット業界においてPChomeは注目すべき台湾企業といえよう。